

令和5年度 豊田市地域自立支援協議会第2回全体会 議事録

■日 時 令和6年3月6日（水）午後1時30分から午後3時30分まで

■場 所 豊田市役所 東庁舎7階 東大会議室1・2

■出席者

＜委員 20名＞

平野隆之（会長）、阪田征彦（副会長）

那須江身子、三宅やすよ、磯部茂子、鈴木誠子、小坂繫、稲垣徹、有村秀一

鈴木雅樹、松井純一、神谷真巳、西村多恵、原野誠也、高木志郎、辻望美、井上亘、
新井弘樹、金田光、勝野二徹

＜担当者会議 4名＞

国松佐知、渡辺裕矢、殿内勝夫、勝田康裕

＜ブロックリーダー 4名＞ オブザーバーとして出席

黒田悠介、久保直子、丸山千恵子、稲見洋佑

＜事務局＞

豊田市 福祉部 障がい福祉課

■欠席者

＜委員 2名＞

小田康夫、成瀬智

■内容（要約）

1 あいさつ

○豊田市地域自立支援協議会 平野会長

今年度の市内の特別支援学校の卒業状況について各学校より説明がある。

2 議題

（1）第7期豊田市障がい福祉計画（案）、第3期豊田市障がい児福祉計画（案）

○事務局

資料1に沿って説明。

○鈴木委員

家族会として多くの家族と関わる中で、支援に限界を感じていると考えている意見が多く聞かれる。こういった家族や当事者が少しでも減少するような障がい福祉計画を策定して実施をしてほしい。

→事務局

現在、地域生活支援拠点等の整備を進めている。御意見を参考にさせていただく。

（2）令和6年度 豊田市地域自立支援協議会の体制について

各ブロック・専門部会の今年度の総括について

○国松委員（各ブロックの取組説明）

資料 2 - 1 に沿って説明。

○平野会長

中山間ブロックの取組の中で足助百年草の活用について記載があるが、今後どのような形で展開を考えているか。

○黒田委員

現在、足助支所から相談があり、中山間ブロック内において百年草の活用方法等を検討している。具体的な取組案は現時点ではないが、今後も足助支所と連携しながら検討していく。

○渡辺委員（医療的ケア部会）

資料 2 - 1 に沿って説明。

○平野会長

医療的ケア児について特別支援学校との連携もあったかと思うが、学校側の状況としてはどうか。

○高木委員

正確な数字は出せないが、豊田特別支援学校では、おおよそ 3 割程度の生徒が医療的ケアの必要があると認識している。

○平野会長

取組 3 について△と評価しているが、調査結果を踏まえて課題解決の検討まで至らなかったからなのか、調査自体が不十分だったからなのか、そのような認識でいるか。

○渡辺委員

課題となる原因を把握できたが、課題解決の検討まで至らなかったため△とした。

○殿内委員（防災ワーキング）

資料 2 - 1 に沿って説明。

○平野会長

災害に関して令和 6 年 1 月に発災した能登半島沖地震にて豊田市の取組を聞きたい。

○阪田副会長

豊田市では、市内福祉施設と連携して障がいがある被災者とその家族の一時避難の受け入れを行った。被災地域の施設職員も一時避難したが、復興状態などにより、帰郷することや新年度からの体制等の課題はあるが、今後も、少しでも支援の輪を広げることができたらと考えている。

○勝田委員（課題・研修整理部会）

資料 2・資料 2 - 1 に沿って説明。

○神谷委員

就学前から小・中学校も含め多様な世代の障がいを抱える子どもへの療育支援というものを各機関と連携しながら様々な取組を検討している。今後も更なる連携を進めていきたいと考えている。

○新井委員

学校現場では福祉に関してよくわからないという先生が非常に多い印象を持っている。少しずつ相談員の方等ともつながりができて障がいの特性などを知る機会が増えてはきたものの、まだまだ教員の障がいの特性に対する知識不足を認識している。今後、学校の先生もある程度専門的な知識を身につけることができるような取組を一緒に検討することができたらよいと思う。

豊田市障がい者相談支援等業務委託関連

○事務局

資料 2 - 2 に沿って説明。

○平野会長

専門部会での議論が途切れてしまうように見える。今後の必要性を含めて改めて継続や内容について整理をしていくということだが、新規参入の事業所によっては今までの話が無くなってしまう不安がある。

また、専門部会での検討内容が基幹会議を経て全体会に報告が入るように見える。これまで専門部会やワーキンググループは全体会に参加することで各機関と連携を深めていくことができているように感じているので、きちんと専門部会やワーキンググループの意見が全体会に反映されるような仕組みをお願いしたい。

→事務局

今後の専門部会の設置、検討の考えの前提として、解決すべき課題を明確にし、期限を定めて専門部会を設置する方向である。今までの課題も整理した上で、より効果的な会議運営に努めていきたい。また、専門部会やワーキンググループの全体会への報告は、必要に応じ実施していくため、指摘いただいた内容で資料を修正する。

○神谷委員

課題解決へのアプローチとして、提案のあった体制はとても整理されていると思う。各会議間できちんとした情報交換や課題の整理を行っていくことができれば、さらに課題解決に向けて進んでいくと思う。

○平野会長

来年度の全体会で改正案を提示するとのことだが、年に 2 回しか全体会の開催がないため、議題として挙がるころには既に新体制になってからある程度の時間が経過している。

全体会は検討をする場だと考えているので、動き出しを早めるなど工夫があると良い。

豊田市地域自立支援協議会設置運営要綱

○事務局

資料 2 - 3 に沿って説明。

(3) 豊田市地域生活支援拠点等の評価について

○事務局

資料 3 に沿って説明。

閉会